

# 令和元年度山形県環境教育推進協議会議事録

## 1 日 時

令和元年11月29日（金） 午後1時30分～3時25分

## 2 場 所

山形県庁701会議室

## 3 出席者等（敬称略）

### (1) 出席委員

大場 里美 大戸 晃彦 澁江 学美 阿部 稔 後藤 正寛  
田中 裕子 田中 吉弘 阿部 英子 玉谷 貴子 二藤部真澄  
今村 哲史

### (2) 欠席委員

なし

### (3) 県・事務局

環境エネルギー部次長 佐藤 紀子  
環境科学研究センター所長 佐藤 貢一  
環境エネルギー部環境企画課長 佐々木紀子  
循環型社会推進課長 佐藤 伸  
みどり自然課みどり県民活動推進主幹 渡邊 潔

## 4 会議の概要

### (1) 開 会

### (2) 委員紹介（事務局から委員を紹介）

### (3) 挨拶（佐藤環境エネルギー部次長）

### (4) 議 事

#### ① 会長の互選について

事務局	協議会設置要綱第5条第1項の規定により、「協議会に会長を置き、委員の互選により定める」とされています。会長の候補者について、御意見のある方はいらっしゃいませんか。
阿部委員	山形大学の今村先生に継続してお願いしたいと思います。
事務局	他に御意見はございますか。 (意見なし)
事務局	今村委員に会長をお願いすることでよろしいでしょうか。

	(異議なし) 今村委員が会長に選出されました。
--	----------------------------

② 会長職務代理者の指名について

今村会長	協議会設置要綱第5条第3項の規定により、「会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指名する委員が、その職務を代理する」とされていますので、会長職務代理者に阿部委員を指名します。
------	--

③ 山形県環境教育行動計画に基づく施策の実施状況について

今村会長	山形県環境教育行動計画に基づく施策の実施状況について、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料1～資料9について説明
今村会長	ただいまの説明に関し、委員の皆様から御意見、御発言をお願いしたいと思います。名簿順に御発言いただきたいと思います。
大場委員	私は、資料4-1で赤字になっておりました環境教育指針の改訂版の作成に携わっていますが、こういった仕事に携わって初めて知るものが多いと感じているところです。学校に勤務している時には、色々なものをお見かけするけれども、なかなかそこまで考えて触れられていなかったというのが実情で、話を伺うにつけ、見直しをしている新しい指針の中で御紹介する形で広めていければなど思ったところでした。 また、小学校には様々な冊子が配布されているということは、それが中学校でも子ども達の間で話題になったりすれば違うのかなと思ったところです。感想になりましたが、以上です。
大戸委員	今回、資料を拝見して、特に資料4-1を見ると、非常にたくさんの事業とプログラムがあって、個別には聞いていたのですが、大きい事業の中に、それぞれが含まれているということが分かりました。 特に小学校では、先ほど紹介のあった木育の2冊の冊子は、本校にも届きました。届くタイミングが重要で、低学年向けの「森の探検手帳」は、1学期に届きましたので非常にありがたく使わせていただきました。一年生が山に散策に行く前に見てから行くと、なるほどなあと感じ、秋に行った時には、色が変わったねという話をしたと担任が言っており、非常に有効に使わせていただきました。一方、5年生対象の「やまがたの森林」が今月中旬に届きました。このタイミングで届くと、なかなか活用しづらいので、何とか1学期の間、夏休み前ぐらいに早めることはできないでしょうか。 また、資料1に参考として付されている環境保全の取り組み促進にかかる法律では、市町村でも行動計画を作成するよう努めることとされていますが、山

	<p>形県内の 35 市町村のうち、どの程度の市町村がこの法律に基づく行動計画を作成しているのか、その辺の実態がもしわかれば、教えていただきたいと思います。</p> <p>本校は、酒田市立の学校ですが、酒田市でもこういった取組みは結構あります。教科書にも、川の上流から下流を見る単元があり、市内の小学校では、ゴミの焼却とか浄水場の水源から水になるまでを見学する授業を以前からやっております。市の教育委員会も十分承知していきまして、バスを出したり、浄水場に事前にアポイントをとっていただいたり、全ての学校が行きやすいようにしております。こういったことも市町村が行動計画として持っているかどうかで、かなり状況が違うのかなと思ったところでしたので、もしその辺の状況が分かれば教えていただきたいと思います。</p>
佐々木 課長	<p>市町村の行動計画につきましては、把握しておりませんので、今後、把握に努めたいと考えております。また、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料 2-2</span>山形県の環境教育推進体制にあるように、市町村と連携をしながら進めていかなければならないと考えておりますので、まずは、計画の存在の把握から努めて、実際の連携に繋げるようにしてまいりたいと考えております。</p>
渡邊主幹	<p>「やまがたの森林」については、毎年お送りしており、内容についてはほぼ同様となっておりますので、よろしければ、前年に送った分で御対応いただければと思います。</p>
佐々木 課長	<p>補足ですが、環境学習プログラムについて、市町村、学校、放課後児童クラブなどに活用をお願いをしており、市町村の会議の場でも紹介させていただくなどの連携をさせていただいております。</p>
澁江委員	<p>昨年度まで義務教育課長、それから教育次長をしておりましたので、環境エネルギー部には、社会教育等を含めまして御協力をいただいております。先ほどの放課後児童クラブについても、生涯学習振興課主催の会議の中で御説明いただいたり、私自身も文教公安委員会の中で、木育等について御質問いただきますとお答えをするような立場でしたので、様々な手だてをとっていただいていることについて、感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>今年度、5年ぶりに学校に赴任しましたが、学校の置かれている立場がものすごい状況で、例えば18歳成年のこと、小学校では英語教育プログラミング学習、新しい学習指導要領の波の中で、どのようにカリキュラムを組んでいくのか非常に難しい状況になっています。環境教育ということを取り上げてというよりは、どのように教科の中で回していくか、例えば、道徳、学級活動、理科、社会、家庭科、そして、国語や英語の中でも、読み物教材としてそうしたものが入っている。あらゆる教科で様々なことを行っているというのが現状です。やはり、もっと上手に様々な資料、機関などを利用していくことが大切だとい</p>

うことを、今日教わったように思います。

特に中学校にあっては、確かに環境は大切なんだけれども、経済を回すにあたっては、どうしてもそこに矛盾があるということを感じさせるような環境教育が、これからの時代の子ども達には大事なのかなと思っています。ですので、ずばり環境というよりは、色んなところで気づきをしていく、授業の中で、でもやっぱりそれでも飛行機に乗らなければならないし、車に乗らなければならないし、経済活動をするには廃棄物が出てきたり、自分の生活の中でも、どんなに工夫してもごみが出てくるんだ、じゃあどうしていけばいいのかという気づきのところを大事にしていかないと、継続は難しいだろうなということを実感しているところです。

それにつきましては、大戸先生からありましたが、資料配布の時期については、子どもに一冊ずつ渡してしまったりすると回収等も難しいので、そういった配布時期のことも、是非考慮いただければと思っております。

それから、ターゲットがどうしても教育というところに向いてきますが、子ども達は、教わったこと一生懸命学んで、校内を回ると電気も消えていますし、教室を出るときには暖房も止めていますし、本当に行き届いてる子どもたちだと実感します。また、学校にそのコスモポリタンを育てるということは非常に重要で、社会の中で生きていく子どもたちを育てていく、その子たちが親世代や、経済活動を担う時代になった時に、環境というものに少しでも努力をできるような人材を育てるという視点も十分分かります。しかし、実はその親の世代あたりの方々が、そうした子どもたちの純粋な気持ちを潰してしまうことでもあります。ですので、環境教育を行う時のターゲットについて、何か御考慮をいただければ、もう少し様々な活動が展開できるのかなと思います。よろしくをお願いします。

阿部 稔  
委員

本日は高校の代表ということで参加させていただいておりますので、高校生についてお話をしたいと思います。

どの学校でも環境教育に対しての関心が年々高くなってきていると思います。本校に関しては工業高校ですので、環境に配慮したものづくりが年々盛んになっておりますし、出前授業という形で、ものづくりの楽しさや再生可能エネルギーの仕組みなどについて、小中学校への出前授業なども行っております。また、全校での取組みとしては、お祭りの後の清掃活動やプルタブ回収、ペットボトルキャップ回収などを実施しております。

工業高校ですので、ものづくりになりますが、先ほど関心が高くなったと申し上げましたが、今日説明をお聞きし、幼児期から小学校、中学校というそれぞれの時期に色々な取組みをしてきた生徒が、工業高校に入ってきているということを実感しています。そういった中で環境に対する意識が高まり、ものを作る時も、そういった配慮ができるようになってきているのではないのかなと思っておりますので、やはり幼児期、小中における取組みが非常に大事なことだと実感します。ですが、小学校や中学校の時にどういう取組みをしているかと

<p>後藤委員</p>	<p>ということについては、ほとんど高校の教員は分からず、イメージしかないので、今日、詳細に紹介していただきました取組みについて、できれば高校の教員にも分かるように、こんなことを体験している生徒が高校に入学しているということが分かるものがありましたら、非常に参考になり、さらに質の高いものづくりができるのではないかと思ったところです。</p> <p>本校では教育目標の2番目に環境についての目標を掲げております。具体的には、「科学技術の進展や環境問題、エネルギー問題に柔軟に対応できる人間を育成する」ということで、これをもとに本校の教育が取り組まれていることとなります。また、令和4年度から、高校でも新しい教育課程になりますが、その工業の科目に「工業環境技術」という科目があります。色々な学科がありますが、「工業環境技術」は、学科に関わらず全ての工業の学科で選択できる科目であり、工業における生産性や効率だけを優先するのではなく、工業生産が環境に与える影響について責任を持って、また、工業に関わる職業人に求められる倫理観を育てるという目的で導入されております。</p> <p>本校では修学旅行で、先日、トヨタ自動車に見学に行きました。授業では環境に配慮したものづくりということをやっておりますが、実際、世界を代表するトヨタ自動車に行き、環境に配慮したものづくりについて徹底して管理されたものを一目見るだけで生徒の意識が変わります。そういったことを行いながら、環境に配慮したものづくりができる人材を育成しておりますので、今後も皆様と連携を取りながら進めていきたいと思っております。</p> <p>初めてこの会議に参加させていただいたため、勉強不足のところもありますが、報告を伺いながら山形県の取組みが広範囲に膨大に積み重ねられてきたということが分かりました。</p> <p>私は小国町にあります小さな私立の学校の校長をしております。木育のお話を伺いましたが、本校と一番接点があるのかなと思いをしながら話を聞いておりました。環境教育は、environmental educationと一般的に言われておりますが、高校生はどういうふうに、それぞれの場所にあって、それを学んでいくんだろうかということと共有する視点かなと思いました。</p> <p>先ほどから説明にありましたけれども、理解ということが一つのポイントになると思いますが、理解には二つあって、一つは左の脳、知的な理解です。本校は全寮制の学校で、生徒は全国から来ており、スマホ、インターネットは禁止、TVもありません。山の中、森の中で生活しているという環境にあるものですから、生徒たちの森の中での発言や発想を聞いてみると、年齢の違いを超えて、例えば、木とは何だというような話をすると、スマホで検索すればすぐに一発で写真を出してくれますが、本校の生徒にとっての木は、木の表面がガザラザラしてる、残雪の締め雪の頃には、木に耳をあてると樹液の流れている音が川のように聞こえるという、木とはそういうものなのです。理解といった場合に、このようなエモーショナルな、自然に心が寄せられるような理解と、もう一つ、知的な理解もあるだろうと思えます。知的な理解では、高校生ですか</p>
-------------	---

田中裕子 委員	<p>ら、クリティカルシンキングの側面から、木を見ながら、日本を見ながら、ついでには世界につながる、そういうふうな繋がりを、常にそれぞれの経験を投影させていくということが大事なんだろうなと思っています。</p> <p>生徒は全寮制で生活を一緒にしております、生産活動もしています。米を作ったり、牛を飼ったり、農業というのは環境的なテーマに非常に関係していると思います。種の問題、土の問題、水の問題、気候の問題。生産活動というのは意外に環境に繋がっており、種の種子法など、今の子どもたちが農業に問題意識を向けていかなければならないことがあちこちにあります。</p> <p>本校では、授業の中でも森林学という授業があり、20年もやってきています。シラバスやレジュメなどもあります、「森の探検手帳」を見させていただき、いいなと思いました。森林学の授業では、樹木の葉っぱや花とか果実とか種子とか何なのかということ、紅葉をしているとか、豪雪地帯とブナ林、そういう授業をやってきています。生活と本校でやっていることをつなげながら話を聞き、今後、色々な繋がりを模索していきたいと思っています。</p> <p>また、福島からの距離が 120 数キロですから、毎日、空間線量、放射線量を測っています。やはり原発の問題というのも見逃してはいけない人災的な環境問題だと思います。そういったことも含めて大事な視点かなと思いつつ、いろいろお話をお聞きし、関心を広めたいと思いました。</p> <p>やまがた木育の進め方を拝見して、資料に緑環境税を活用したやまがた木育の推進ということで、森や木に親しむための活動を行う団体等に対して、考え方を周知して活動に取り入れてもらうというような、実践者に裾野を広げていくというところがありましたので、それに関して体験のようなことになりませんが、お話をさせていただきたいと思っています。</p> <p>四、五年前になりますけれども、取材で山形建設労働組合さん、大工さんの団体ですが、そちらの方が年に1回、市内の小学校を回って木工教室をしているということで、見学に行ったことがありました。</p> <p>私が行ったのは山形六小の4年生でしたが、材料がキットではなく、大工さんたちが現場で使っている木の残りの端材で、大きさも形も質も全部バラバラなものでした。それを山積みにして、子どもたちが使いたいというものを自由に取ってきて、鋸や金づちなど、好きな道具を使って、好きなものを作るという体験教室だったのです。大工さんに教えてもらったりしながら、すごく楽しそうに作っていたのですが、そういった大工さんたちの木工教室などもこの活動を行う団体の一つとして対象になるのかなと思いついたところです。</p> <p>先ほどの木育のお話の中で、年齢に応じてというのがあったのですが、小学校の4、5年生になると、大人がこれぐらいのレベルかなと思う以上に創造性があり、大人顔負けのような作品、この子は将来大工さんになるのではないかなというような作品を作っていた子もおりますし、楽しそうにしてその木と触れ合っていました。</p> <p>人材育成という話もありましたけれども、新たな人材育成と合わせて、こう</p>
------------	---

	<p>した大工さん等、すでにスキルを持っている人材を活用することも、並行して進めていったらいいのではないかと思ったところです。こういった木工教室の前に、環境教育に繋がるお話を県の方にさせていただくとか、県の環境関係のイベントでそういった大工さんのスキルをお借りして木工教室を開くとか、何らかの形で連携をしていければいいのかなと、連携していくという項目を見て思い出したところです。以上です。</p>
<p>田中吉弘 委員</p>	<p>ただいま、膨大な資料により説明をお聞きしたところですが、関係各課の皆様方の心が伝わってくるところです。</p> <p>私ども南陽市社会教育課で担当している放課後子ども教室では、県の環境科学研究センターから先生をお招きしてのリサイクル工作や、木育に関しては、美しいやまがた森林活動支援センターの先生をお招きして、様々な体験活動などをさせていただいているところです。</p> <p>学校で学ぶことのできないそういった活動には、子ども達も喜んで取り組んでいるところです。今後とも、関係機関のお力を借りしながら、環境教育、木育なども含めながら、子どもたちが少しでも理解できるような活動、今後に繋げていけるような活動を推進していきたいと思っています。</p>
<p>阿部英子 委員</p>	<p>私は、酒田市にある地元で48年営業している電気工事会社、荘内電気設備に勤めております。2011年の震災を機に、エネルギーのあり方を考え、翌年に、再生可能エネルギーのアンテナショップ「えねこステーション」をオープンいたしました。そこには、小さなスタジオを設けており、自分の発信できること、やりたいこと、伝えたいことを地域の人たちの協力を得て、色々と発信してきましたが、こういった皆様の取組みを拝見しますと、とてもヒントになります。</p> <p>地域の繋がりを大事にしてきたというのは、私は遊佐町に住んでいるのですが、鳥海山の湧き水や湧き水の綺麗な水を守るための廃油石鹸づくり、ジオパークに認定されて、それを守る方々の尽力ということもあります。御最前いただいている会社がグリーン系の企業ということもあり、電気工事会社なのにロケットストーブを作ったりしたので、最初はちょっと変わっている会社だと思われていたのですが、そういったことを継続して繋がりを深めていったことで、この会議に参加する機会が得られたと思い、また一つ自分の励みと勉強になることをとてもうれしく思います。</p> <p>また、スタジオが空いている時間は、リサイクルのハンドメイドサークルなどを月2回実施していますが、そこには移住者の方も参加しているので、自分で見えなかった地元の良さが見えてきたところもあります。</p> <p>私は、等身大で子どもにも伝える、そして地元の人にも再認識できるというような視点でしか進めて来れなかったのですが、山形県にいたることができるということがとても幸せですし、日本海に面しているということもありますので、今後はマイクロプラスチックの問題にも関心を向けながら、SDGsについても参考にさせていただいて、少しずつ繋がりを持って発信していきたいと思</p>

<p>玉谷委員</p>	<p>ます。</p> <p>私は、西川町で有限会社玉谷製麺所取締役をしております、製麺業という職業ですが、山形大学が進めております科学の花咲かせ隊のクラゲマイスターをしております、クラゲを通して科学って楽しいねということを伝えている立ち位置にあります。また、加茂水族館でボランティアガイドをしております、生物の楽しさから、庄内の海のすばらしさを伝えるということをしていただいております。</p> <p>今回このような会議に参加させていただきまして、皆様のすばらしい取り組みが、山形の美しい海、生き物、森を支えているのだらうと感じとれました。</p> <p>個人的ではあるのですが、<a href="#">資料 4-1</a> 循環型社会推進課が行っている、環境にやさしい料理コンテストというレシピコンテストがありますけれども、三年前に準優勝をいただいております、これもそうだったんだなあと感じているところです。また、省エネの標語に関しても、冬はひっぱりうどんであたたまろう、冷たいラーメンで暑い夏を乗り切ろうという標語を書かせていただいたとき、夏と冬、賞に選んでいただいた経緯がございました。これで、少しでも県民の皆さんが、環境に対して興味を持ってくれたらということだと思います。微力ながら、少しでも県民としてお力になっていければと思います。</p> <p>一番驚いたのが、<a href="#">資料 7</a> にあります、子どもの成長に合わせたやまがた木育の推進ということで、それぞれの年代に合わせたガイドブックや「森ですごいなあ」という絵本も、パワーポイントにして、大勢の方に発信するというをしているというのが、一歩ずつ進んでいると思えました。よろしければ、YouTubeのように、どこでも見えるようなものにしていただいたりすると、面白いと思っています。</p> <p>クラゲマイスターの中でも、子どもさんたちに対して科学の面白さを花咲かせようと種まきしているのではなく、実はターゲットは子どもさんではなくて親御さんなのです。なぜかというと、面白いねという気づきを与えたときに、そこからしっかりと水やりを毎日してもらわないといけないと思ってるからです。ですので、クラゲに触ってもらうという時には、お子さんだけでなく、嫌がるお父さんお母さんに手袋をさせて、触ってもらうということを必ずしております。やはり、お子様への森林ノミクスや木育、海の恵みへの関心を醸成するだけではなく、一緒にお母様、お父様達の気持ちというものも育ててあげられたら、きっと山形らしい環境に対する考え方が育まれていくのではないかと感じたところです。ありがとうございます。</p>
<p>二藤部委員</p>	<p>様々な課で、それぞれの視点で環境に取り組んでいるという資料を見せていただいて、皆様からも発言がありました、大変ありがたいなと思っております。</p> <p>地球温暖化防止活動推進センターをさせていただいている関係で、先日、北海道・東北ブロックで合同研修会をしましたが、その際に青森県の温暖化防止</p>



	<p>センターさんから、地域に根差した学習のツールの例を紹介いただきました。地球温暖化防止という、広いグローバルな話ですが、そうではなく、少し身近な青森県の自然をテーマにしたツールを使って、それを使っていくと温暖化防止について学ぶことができるというもので、自分の身近なところから少し広い視点を持てるというツールを見せていただいたところでした。</p> <p>今回報告していただいた事業の中で、個人的な感想ではありますが、高校生、大学生という取組みが多くなってきているのかなと思いました。高校生、大学生ですと、環境教育を受ける側のターゲットの世代にもなり得るし、教える側、講師の側にもなるんだと、先ほど阿部先生からも、高校で出前講座をされてるという話がありましたので、私たち社会人が講師となるということもありますが、小中学生にとっては、少し年上のお兄さんお姉さんから教えてもらおうと、吸収することや記憶していることも違ったものがあるのかと思います。そういったところに関しても、私たち環境ネットやまがたとしても何かできることはないのかということを考えながら見させていただきました。</p> <p>最後に、内容をお聞きしたいのが、大学生、高校生の取組みで、<b>資料 4-1</b>赤字になっているところで、大学生の柔軟な発想を取り入れた3Rのワークショップをされたということがありますが、どんな内容で実施されたのかということと、<b>資料 9</b>SDGsの取組みで、SDGsカフェを大学生と一緒にされたということで、グループワークでも非常に身近な問題だと感じていることがあるのか、問題解決のためにそれぞれができることなど、非常に突っ込んだ、より具体的な話題が出てきているのかなと思ひまして、その2点について内容を教えていただければと思います。</p>
佐藤課長	<p>ワークショップにつきましては、先月末にビッグウイングで、「やまがた環境展」を開催しましたが、その中で、東北芸術工科大学に委託をして、学生が子どもを巻き込み、手形を作るなど楽しみながら環境について学べるようなことや様々な木の端材を使って木工なども行いました。</p>
佐々木課長	<p>SDGsカフェの状況については、<b>資料 9</b>になりますが、庄内会場では公益大の御協力を得まして、公益大で海ごみの取組みをしているゼミの学生に主に集まっただき、SCOP（スコップ）という海ごみの問題に取り組んでいるサークルの活動の状況などを発表していただきました。グループワークの中でも、海ごみのうち内陸部からきているものが7割ということを知ったという声もありましたが、最上川の保全など、そういったことが大事ではないかという意見も聞かれました。山形会場では、芸工大でSDGsの山形版カードゲームを作っている学生から発表いただきまして、SDGsを通した環境の課題などを話し合いましたが、食品ロスの話や山形の自然環境を資源として認識しなくてはいけないのではないか、その価値を認識していくことも大事ではないかなど、非常に広い視点から様々御意見いただきました。来年度の環境計画の策定のため、県民の皆さんから意見を聴取する機会の一つとして設けた</p>

<p>今村会長</p>	<p>もので、持続可能な社会づくりのためには、特に若い人から繋げていかなければならないということで、大学生や高校生という若者を中心に参加を募り企画したものです。</p> <p>他に、御意見等ありますか。</p> <p>今回は、次期環境教育行動計画の策定をしていくにあたって、本番が来年になろうかと思うのですが、今年度までこういうことをやってきていますということをご皆さんに見てもらえればということです。資料が山のようにあり驚きますが、例えば、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4-1</span>のあれだけのことを実は山形県がやっているというのは、議会に対して胸を張れることだと思いますので、ぜひもっと予算を取って欲しいと思います。</p> <p>今、並行して、環境教育指針の改訂作業を山形県教育センターを中心として、環境企画課と連携して作っており、今年度の3月に完成し、知事にお渡しする予定となっております。</p> <p>そちらの方が指針といういわゆるガイドラインですので、それがあって、この行動計画というものも当然それとタイアップした形にならないといけないと考えております。ここができるだけ乖離しないようにとこれからのことを考えて思います。</p> <p>SDGsについても、話題がだんだん出てきておりますので、その対応も考えた上で指針を考えなければいけないだろうと思いますし、次の行動計画へも多少反映されなければいけないと思います。</p> <p>前回、もしくは指針の場合も平成19年に見直しをし、その時からずっと、内容論でなく能力論に変えてくださいと申し上げています。つまり、委員の方からも少しあったと思いますが、温暖化であるとかトピックスは内容としてはあるのですが、結局、教育になるとどうやって人を育てていくか、その人がどういうスキルを身につけるのが大事なことです。それが将来、終生、役に立っていくスキルである、そういう能力を身に着けて伸ばしてきている人が、次の20年後30年後の社会を作る人になるということを見据えたものにする。日本の環境教育というとまだまだ新しい部類に入ると思うので、最初は知識、内容で良かったのですが、こういうことがありますね、それをやるにはどう行動したらいいのかというためには、まずはそれを取り込んで、精査して、自分なりに自分の心情の価値判断基準に合わせて決断をし、そしてそれを行動に移すという能力が必要になる。それが文部科学省でも、平成10年代後半ぐらいになって、20年代に入って、環境教育の内容について能力のような形で示すという、今までのトピックスありきのものではなくて、そういうものに変わりつつあります。ただし、それは非常にアバウトなもので、それはそれでよろしいと思いますが、学校教育の場合には、教育全般がそうですが、どういう能力、何がどこまで、どれだけでできているのかということ、どれだけにしようとしているのか、本当は、そこをきちんと見据える必要がある、それが私が申し上げたい能力論ということです。</p>
-------------	---

	<p>今、学校教育では、指導要領が変わって、資質能力という言葉が使われますが、それ自体は本当の人としての能力という意味です。それをどうつけるかだと思います。その辺が、前回の改定された指針の時から、つけたい力という形で少し細かく示されているのですが、残念ながら指針が学校に浸透したとは全く思っていません。でも、それを浸透させ、あるいはそういう能力に合わせて、それが各教科での能力ともおそらく合ってくるはずなので、そこは合わせて、学校教育あるいは社会教育の中で、もしくは生涯教育として計画を立てていただきたいと思います。そのための行動計画として、目標とか目安となるものを策定できればと思っております。自分としては、15年ぐらいずっとこういうことを喚び続けてきたような気がします。やっと、最近少し能力に目を向けてくれたのかなと思います。</p> <p>学校の先生は、指導要領に縛られながらやらなければならないという厳しいところがありますし、社会の中で、社会のルールでということ、それが必要になると思います。そういう点で、少しずつそういう理念を表に出せるように示した上で、また、それぞれの皆さんが今関わっている、教育委員会、学校、会社、NPO法人の中で活かしていただけるような、そんな指針、行動計画になればいいのかなと思っております。</p> <p>まだ今日がスタートとなりますので、是非、次回は我々皆様方が非常に葛藤して、ジレンマとかトリレンマに陥るぐらいの御提案をいただきつつ議論ができればいいと思っております。よろしく願います。</p>
今村会長	<p>それでは、報告の次期山形県環境教育行動計画策定についてでございます。事務局からお願いいたします。</p>
佐々木課長	<p>今年度の協議会は今回の1回になりますが、来年度は、行動計画改定にあたりまして、2回ほど会議を開催させていただきたいと考えております。その際にまた、様々御意見いただければと考えております。時期的には夏頃、8月ぐらいと、11月の2回というようなことで考えておりまして、近くなりましたら、皆様のスケジュールを調整させていただきまして、日程を設定したいと思しますので、その際はまたよろしく願います。</p>
今村会長	<p>以上で、本日の議事報告については終了したいと思います。</p>

—議事終了—

(5) その他

(6) 閉 会